

薬学部開学記念式 式辞

本日ここに、衆議院議員 河村 建夫様、参議院議員 林 芳正様の代理として
林 裕子様、山口県知事 村岡 嗣政様、学校法人東京理科大学 理事長 本山 和夫
様、山陽小野田市 市長 藤田 剛二様、山陽小野田市 市議会 議長 小野 泰様、山
口県 薬剤師会 会長 中原 靖明様、山口県 病院薬剤師会 会長 山崎 博史様、山
陽小野田 薬剤師会 会長 藤原 哲様をはじめ、ご来賓の皆様方には、ご多忙のなか、山
陽小野田市立 山口東京理科大学の薬学部 開学記念式に、ご臨席を賜り、挙行できま
すことは誠に喜びに堪えないことです。誠に有難うございます。

薬学部の開学に当たり、新校舎の建築が無事故・無災害で進行されたことは、本事業
を統括されました、山陽小野田市長様をはじめとする市関係者の皆様、工事を担当され
た企業体、並びに工事関係者の皆様の多大なるご尽力によるものと感謝申し上げます。

近隣にお住まいの皆様方には、新校舎の工事期間中、何かとご不便、ご迷惑をおかけし
たことと拝察いたします。この場をお借りして深くお詫び申し上げますとともに、大学
創立以来、温かく見守っていただきましたことに心から御礼を申しあげます。

さて、山口県の人口は現在、約137万人ですが、薬学部を設置している国公立大
学が本県にはなかったことから、毎年、他県の薬学部への進学者が約200名いたにもかか
わらず、山口県に戻ってくる薬剤師は30名程度で、薬剤師の後継者不足が長年の課題
となっており、山口県における薬学部の設置が長年にわたり、大変期待されておしまし
た。

このようななかで、本学に薬学部が設置するに際し、特段のご高配を賜りました、山陽小野田 市議会の皆様、小野田 商工会議所、山陽 商工会議所の皆様、山口県の皆様、山口県 高等学校長協会の皆様、山口県 薬剤師会、山口県 病院薬剤師会、山陽小野田 薬剤師会の皆様、姉妹校であります東京理科大学、そして地域の企業、医療機関をはじめとする多くの皆様から、絶大なるご支援を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

このような背景下、本学に開学しました薬学部は、『薬学をとおして人の健康を守る』、ことを目的として、次世代を担う社会に有為な医療人材を育ててまいります。

このために、本学 薬学部では、医療サポートを扱う『医療・臨床薬学』、薬の発見や製造に関わる『創薬科学』、国民のクオリティ・オブ・ライフを確保する『社会健康薬学』、などの多様な視点から『薬』について学ぶと共に、健康寿命を平均寿命に近づける考え方に着目して、日常生活で病気を防ぐ『予防薬学』も教授するなど、従来の薬学の知識に加えて、現代社会に即した薬学の考え方も身につけることができるのも本学の特色の一つです。

薬剤師国家試験に合格するための教育は当然のこととして、座学で得られる知識や技術と共に、介護、医療、福祉など地域の大学、組織と連携して、多様な人と交流することによって、地域の人たちの生活と健康を支えることを、経験も通して人材を育ててまいります。

大学全体としては、工学部との薬工連携を強固なものとし、山陽小野田、並びに山口県が抱える課題の解決に、地域の一員として積極的に協働するとともに、環境・衛生・健康・加齢などに関するコミュニティー講座の提供もさらに活発化させて、地域に生き、地域に愛される大学としてますます発展してまいります。

卒業後は、これらの経験で身につけた能力をもとに、医療現場や薬局、行政、企業などのあらゆる分野で、人と人をつなぎ、「問題発見力」、および「課題解決力」をもって、学びを社会に還元することによって、結果として、市民の生活と健康を支えることができる
有為な薬学人材として活躍することを願って、人材育成に務めてまいります。

結びにあたり、皆様のこれまでの本学に対するご理解、並びにご尽力を賜りましたこと
に対して、改めて感謝とお礼を申し上げますとともに、今後とも変わらぬお力添えを賜
りますようお願い申し上げます、薬学部開学記念式の式辞といたします。

平成三十年四月十日

公立大学法人 山陽小野田市立 山口東京理科大学

理事長 池北雅彦